令和６年度の具体的な学校経営目標・計画（年度当初）

令和６年４月 22 日

＜評価基準＞　Ａ：全て達成　　Ｂ：全てのうち半数程度達成　　Ｃ：Ｂに達しない

岡山県立瀬戸高等学校

学校経営目標	担当	具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況	評価	最終達成状況	評価	総合
①授業改革をより一層進め、ICT機器を効果的に活用するとともに、主体的・対話的で深い学びを実践することで、授業が自分事となる学びを実現する。 （尚学）	教務課	・校内の授業公開期間を中心に、協同学習やICT機器の活用等により、生徒につけたい６つの力の視点に立った、生徒自らが主体的に学ぶ授業づくりを実践する。	・学校改善アンケート（生徒対象）の「授業や補習に積極的に取り組んでいますか」の質問項目において肯定的評価が88％以上（前年度85%）、「授業はわかりやすいですか」の質問において肯定的評価が85％以上（前年度82%）になる。 ・教員の一般的な端末の活用指導力（授業でどの程度端末を活用させてるか）を県内の上位1/3以内にする。（昨年度21/53）					
	進路指導課	・生徒が自走できるように，授業やひたぶるタイム等，主体的に取り組む活動を通して，確かな学力と考える力・表現する力を育成できるように計画・立案・運用し，進路保障の一助とする。０	・普段の授業時間の中で，生徒の主体的活動が展開される場面を意識的に設ける。 ・キャリア･デザイン室を中心に，学びを自走させクリエイティブな生徒を育てる授業改革を推進する。 ・各学期で多様な授業実践を公開し，意見交換を行う。					
	１年次	・授業を大切にし、予習・授業・復習のサイクルを確立し、学習習慣を習得させる。 ・課題・提出物を必ず提出させる。	・学期毎の振り返りシートによる調査「授業を第一に、予習・復習を徹底的にすることができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が70％以上になることを目指す。 ・学習実態調査の家庭学習時間が平日３時間、休日４時間確保できることを目指す。 ・学校改善アンケート「宿題や提出物は期限を守って提出できていますか。」の質問項目において肯定的評価が70％以上になることを目指す。					
	２年次	・進路を見据えた目標を設定し、学習サイクルを回す。 ・課題・提出物を必ず提出させるよう指導をする。	・学期毎の振り返りシートによる調査「進路を見据えた目標を設定し、学習サイクルを回すことができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が70％以上になることを目指す。（1年3学期 52.2％） ・学習実態調査の家庭学習時間が1日平均３時間確保できることを目指す。（1年3学期 86分） ・学校改善アンケート「宿題や提出物は期限を守って提出できていますか。」の質問項目において肯定的評価が80％以上になることを目指す。（1年3学期 70％）					
	３年次	・授業を第一に、予習・復習など、優先順位を考えて自走できるように工夫する。 ・Classiの学習記録を利用して学習実態調査を実施し、時間や期限の管理を自分でできるように目標や計画を立てる機会を多く設け、自己管理ができるように指導する。	・具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査「授業を第一に、予習・復習を徹底的にすることができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が75％以上を目指す。（2年3学期 70.3％） ・具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査「進路目標を決定し、行動することができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が80％以上を目指す。（2年3学期「進路目標を見つけ、プラスαの学習を１つ始めることができましたか。」 59.4％）					
	教育DX	職員研修や総合的な探究の時間において生成AI活用ガイダンスを実施し、ICT機器を効果的に実践できる環境をつくる。	・教員間でも生成AIについての認識が異なり、生徒への指導についても不安がある。ガイダンスなどを通して、生徒の質問やプロジェクトに対して生成AIを使ってサポートできる。 ・独自アンケートで生徒･教員への「AIを活用することができる」の質問項目において年度初めから肯定的評価が30％上昇する。					

②生徒が主体的に行動し、自らの成長を実感できる取組を進め、将来は自立した社会の構成者として活躍する素地となる、より良くなろうとする力の育成を行う。 （自主）	教務課	・生徒主体のオープンスクールを企画・運営することで、生徒の主体性を養うとともに、生徒による本校の魅力発信に繋げていく。	・生徒主体のオープンスクールを継続し、生徒による本校の魅力発信に挑戦する。 ・オープンスクールの中３生参加者数を320人以上にする。（昨年、中３生OS参加者312名、学校説明会参加者中３生26名，中２生54名）					
	生徒課	・生徒会主催の学校行事で、生徒主体の活動を実践させるとともに、生徒自身が計画・運営し、全校生徒で行事を盛り上げることができるよう支援する。 ・生徒から要望の出ている期間中のスマホの全面許可など、課題を投げかけ、できるだけ生徒主体で取り組みができるように指導していく。	・瀬戸高祭アンケートの満足度において、全体的に「よい」の数値で95%前後（昨年度97.5％）の満足度を維持する。Chromebookの活用により多数のアンケート結果で収集し分析する。 ・課題に対して、生徒主体で検討を重ねさせ、主体的に活動する生徒会（執行部）をめざす。					
	進路指導課	・個々の進路実現に向けて，様々な活動に自走できるよう，情報や機会の提供を面談・研修会などで進めていく。 ・新しい入試制度に対して，最新の情報収集と情報提供を行う。	・面接週間時の内容ポイントを学年団で共有し，共通理解を図りながら充実した面談が出来るようにする。 ・３年次生はひたぶるタイム等の成果を踏まえ，個人の進路選択について視野の拡大･深化をはかり，個の学びに４月当初の早い時期から繋げていく。 ・進路検討会等の機会を利用して，教員研修の時間を学期に１回以上持つ。 ・学校改善アンケート（生徒）における進路情報提供に関する満足度を昨年度（82%）より高める。					
	厚生課	・保健委員会や環境・防災委員会の充実した活動を実施する。 ・生徒自らが、健康や防災に関心を持ち、様々な体験を通して学んでいく姿勢を育てる。	・各種委員会がそれぞれの立場で、健康や防災について各種研修会などに参加し、機会があればその成果を発表したい。 ・歯科治療率などを向上させていく。 ・性教育か性の多様性などについてのＬＨＲを計画する。					
	１年次	・部活動や学校行事に主体的に参加させる。 ・探究活動などを通して、地域や社会、世界に関心を持たせ進路意識を育成する。	・学期毎の振り返りシートによる調査「部活動や学校行事に主体的に参加することができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が70％以上になることを目指す。 ・生徒たちが主体的に企画し学級活動を行う機会を、学期に一度は与える。 ・学校改善アンケート「部活動、各種委員会活動、瀬戸高祭、球技大会など生徒会活動に積極的に取り組んでいますか。」の質問項目において肯定的評価が70％以上になることを目指す。					
	２年次	・学校の中核として、部活動や学校行事に主体的に取り組むよう支援する。 ・探究活動を通して知的探究心を刺激し、進路意識を育成する。	・学期毎の振り返りシートによる調査「部活動や学校行事に主体的に参加することができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が90％以上になることを目指す。（1年3学期 89.2％） ・学校改善アンケート「部活動、各種委員会活動、瀬戸高祭、球技大会など生徒会活動に積極的に取り組んでいますか。」の質問項目において肯定的評価が90％以上になることを目指す。（昨年全体 88％）					
	３年次	・大いに学び、大いに楽しめるよう部活動、学校行事に全力で取り組ませる。自分の意見をもち、自ら動くことができるように支援する。 ・進路探究の時間や担任面談等を利用して進路情報を提供し、進路決定できるように促す。担任面談の結果をClassiの「生徒カルテ」に記録し、年次団全体での情報共有を図る。	・具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査「学校行事に全力で取り組むことができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が増加することを目指す。(2年3学期 89.9％) ・学校改善アンケート「部活動、各種委員会活動、瀬戸高祭、球技大会など生徒会活動に積極的に取り組んでいますか。」の質問項目において肯定的評価が80％以上を維持する。（1年時84％）					
	教育DX	・情報機器を導入し、その活用をできるようガイダンスや教員研修などを行う。 ・ICT機器の整備、オンライン学習コンテンツの導入、デジタル教材の活用等などを行う。	・教員生徒のニーズにあったICT機器を整備など環境改善することによって、生徒の主体的な学びに貢献する。 ・数理データサイエンス分野の探究活動を促進し、社会の構成者として活躍したいと志す生徒が年度当初よりも増加する。					

③主体的に他者と関わり、健全で良好な人間関係を築き、その関係を基にした実践的なコミュニケーション能力の育成を行う。 （健康）	教務課	・ボランティアや外部交流につながる情報提供を随時行い、生徒が学校外とつながる機会を設ける。また多様な人々と積極的に交わる意識の高揚を促す。 ・授業や総合的な探究の時間、ボランティア活動等で生徒同士が協同しあいながら主体的に学びあうことで、充実感や満足感が得られるようにする。	・授業や総合的な探究の時間、ボランティア活動等で自ら学校外の人々と係わる機会を１人２回/年以上持つ。 ・学校改善アンケート（生徒対象）の「瀬戸高校で学ぶことに充実感や満足感を持っていますか」の質問項目において肯定的評価が85％以上（前年度83％）			
	生徒課	・挨拶運動や日常生活の中で、気持ちの良い挨拶ができるようにする。 ・制服を正しく着こなし、基本的な生活習慣（遅刻をしないなど）が確立できるようにする。 ・生徒が交通ルールを遵守するように指導する。	・学校改善アンケート結果で、昨年度数値を上回ることを目指す。（生徒・教員70%以上、保護者50%以上）この２年、アンケートの保護者記述回答では、瀬戸高生はあいさつができる、できない、の両方の意見があるので、肯定的な意見を増やす。 ・教員の挨拶指導、生徒会、風紀交通委員による挨拶運動の中で適宜注意を促す。毎朝など元気な挨拶の声を増やす。生徒のコミュニケーション能力の向上を目指す。 ・学期に２回程度、下校指導（１週間）を実施する。			
	進路指導課	・ひたぶるタイムがより協同的な取組となるように工夫し，クラス・学年，さらには学校外の人々と関わる機会をできるだけ多く設ける。 ・ひたぶるタイムの活動を生徒自らの「キャリア・デザイン」の形成に繋げ，社会の一構成員としての自覚を持って行動できる力を育成する。	・１・２年次生は，年次を越えてまたは年次全体・クラス全体での発表の機会を年２回は設ける。 ・１年次生は外部講師を招いての講演会を学期に２回開催する。 ・２年次生は，セト☆ラボの活動を通じて見出した研究課題をフィールドワーク等で深め，自身のキャリア・デザインの形成に効果的に結びつけていく。 ・学校改善アンケート（生徒）における総探への積極度を昨年度（９０％）より高める。			
	厚生課	・生徒の主体的な判断や安全意識の育成を図る。 ・救急法講習会の実施（進路選択の一助） ・悩みのある生徒・保護者への教育相談の充実を進める。	・避難訓練を実施し、生徒自らが判断し危険を回避する能力を育てる。職員にも予測不能な災害に対応できる能力を積んでもらう。 ・希望者に対して、救急法講習会を実施し、学んだことを自分の人生に生かせるようにする。 ・外部の専門家（スクールワーカー）などの活用と連携を持ち、生徒や保護者の内面的なケアに努める。 ・「生徒朝礼連絡票」や「保健便り」を通して情報等を発信し、健康維持の啓発に努める。			
	１年次	・自分から気持ちのよい挨拶をし、友人同士や先生との対話を大切にさせることで、生徒同士、そして先生と生徒のよりよい人間関係を作る。	・学期毎の振り返りシートによる調査「自分から気持ちのこもった挨拶をすることができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が70％以上になることを目指す。 ・学校改善アンケート「登下校時や校内で、自分からすすんで積極的にあいさつをしていますか。」、「学校で先生や他の生徒を１人の人間として尊重していますか。」の質問項目において、肯定的回答が70％以上になることを目指す。			
	２年次	・大きな声で、顔を見て挨拶するよう指導する。 ・お互いを尊重し、感謝の気持ちを持つよう指導する。	・学期毎の振り返りシートによる調査「大きな声で、顔を見て挨拶できましたか」の質問項目において、肯定的回答が90％以上になることを目指す。（1年3学期 89.8％） ・学期毎の振り返りシートによる調査「お互いを尊重し、感謝の気持ちを持つことができましたか」の質問項目において、肯定的回答が90％以上になることを目指す。（1年3学期 97.5％） ・学校改善アンケート「登下校時や校内で、自分からすすんで積極的にあいさつをしていますか。」、「学校で先生や他の生徒を１人の人間として尊重していますか。」の質問項目において、肯定的回答が90％以上になることを目指す。（昨年全体 75％、96％）			
	３年次	・自分からすすんで、気持ちのよい挨拶をし、感謝や謝罪の気持ちを言葉にして相手に伝えるように指導する。 ・コミュニケーションを大切にし、相手も自分も尊重するよう、機会あるたびに伝える。互いを思いやり、認め合い、励まし合いながら進路実現に向けて自走できるよう支援し、全員笑って卒業させる。	・学校改善アンケート「登下校時や校内で、自分からすすんで積極的に挨拶をしていますか。」の質問項目において肯定的評価が80％以上を目指す。（1年時 74％　R5全年次75％） ・具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査「お互いを尊重し、コミュニケーションを大切にして行動することができましたか。」の質問項目において、肯定的評価90％以上を維持することを目指す。（2年3学期「お互いを尊重し、コミュニケーションを大切にすることができましたか。」93.5％）			
	いじめ対策委員会	・人権教育室、教育相談室などと連携をはかり、いじめの早期発見に努める。また人権教育講演会などを通して、人権・いじめに対する問題意識を高める。 ・スタンドバイの活用と、各学期アンケートを実施する。	・スタンドバイや各学期のアンケート結果をもとに、早期発見・解決に努め、いじめのない学校づくりを目指す。			

④郷土・地域の将来を考え、周囲と連携しながら行動する力と社会変革の担い手としてイノベーションを起こし、エージェンシーを発揮する力の育成を図る。 （協調）	教務課	・オープンスクール、学校説明会、ホームページ等の広報活動を充実させ、瀬戸高校の魅力発信を強化する。 ・社会貢献活動・地域貢献活動に主体的に参加し、地域社会を担う一員としての自覚を促す。	・ホームページ更新数・アクセス数を前年度以上にする。 ・入学者選抜において定員充足となる。 ・ブログの更新を教務課だけではなく すべての課で行えるようにし，学校 全体で広報活動を担える体制をつくる。 ・学校改善アンケート(生徒対象)の「社会貢献活動（ボランティア活動）・地域貢献活動に積極的に取り組んでいますか」の質問項目において肯定的評価が70％以上（前年度61％）になる。			
	厚生課	・校外ボランティア活動の推進を進める。	・瀬戸町江西学区の防災キャンプや、県教委が主催する防災関連の行事に生徒が参加し、救急法や防災に関係する学習内容を伝える。また、教員も関係する研修会に積極的に参加していく。			
	全年次	・課題解決型学習を推進することで、自分の頭で考え、自分の言葉で語り、自分の意志で行動できる生徒の育成を図る。	・これまで総合的な探究の時間を中心に行っている、各自やグループで問いを立てて、解決のために行動し、知り得たことや思考を外化するというプロセスを、一層推進するとともに教科学習や特別活動等へも生かし、生徒自身が成長を自覚できるよう支援する。 ・「総合的な探究の時間【ひらぶるタイム】に積極的に取り組んでいますか」肯定的評価90％以上（前年度90％）になる。			
	教職員	・教職員一人ひとりの仕事・生活両面の充実を図り、安心して業務を担い、学び合い、協働しながら教育活動の改善や向上に努め、生徒の成長を支援する。	・時間外在校等時間が恒常的に多くなることを避け、限られた時間・労力の中で業務を遂行できるような意識変革と業務整理、効率化を推進する。 ・各業務の進め方や意義、見通しなどについて共通理解を持って協働的に進めることができるよう、職員間の対話や同僚性を大切にする。			